



The Great Plains Laboratory, Inc.

William Shaw, Ph.D Director

11813 W. 77th Street, Lenexa, KS 66214

(913) 341-8949

Fax (913) 341-6207

患者番号

担当医/クライアント

患者名

検体採取日

年齢

採取時間

性別

結果印刷日

尿ペプチド検査結果

ペプチド	ペプチド (P) ng/ml	クレアチニン (C) mg/dl	相対比率 (P/C)	相対標準比率	
カソモーフイン(牛乳)	132.7	135	0.98	<0.56	H
グリアドーフイン(麦)	16.4	135	0.12	<0.58	

ペプチド検査の結果が異常である(Hと出ている)場合、グルテン/カゼインフリーダイエット (GF/CFダイエット) —牛乳や乳製品、麦を食事から除く食事療法) の実行を考慮すべきです。両方のペプチド結果が通常であれば、ダイエットの実行以前にIgG食物アレルギー検査を受けるほうが良いでしょう。

ペプチド検査、食物アレルギー検査の結果が通常である場合は、その個人はおそらくグルテン/カゼインに対し耐性があるということになりますが、これらの食事を除いた1ヶ月循環食事法も効果的かもしれません。

GF/CFダイエット中の子供からは正常値のペプチドが尿から検出されるでしょう。ペプチド値が正常でない子供も、GF/CFダイエットやペプチダーゼサプリメントに対し効果があるかもしれません。しかし、ペプチドが多く検出されない場合でも、食物アレルギー検査によって、牛乳もしくは麦に対しアレルギーを持ち合わせているかもしれません。

豆たんぱく質や豆乳を含む食事を摂る患者は、尿から多くのペプチドが検出される可能性があります。豆たんぱく質は、食用肉、豚肉、スナック菓子、ソーセージ、冷凍スパゲッティ、トッピング、ホイップクリームなどに含まれる乳化剤、増量剤、結合剤、安定剤として使用されます。大豆たんぱく製品 (TVP) は大豆を主とし、グルテンとカゼインに含まれるペプチドと相似した形体を持っています (Zhang XZ, Wang HY, Fu XQ, Wu XX, Xu GL. Bioactive small peptides from soybean protein. Ann N Y Acad Sci 1998 Dec 13;864:640-5)。

セレネイドやエンザイメドのようなペプチダーゼを摂取している個人からもペプチドが高い数値で尿から検出されるかもしれません。これは、こういったサプリメントが体に有害というわけではなく、これらのサプリメントを形成する化合物の一つが、グリアドーフインやカソモルフインに対し何らかの形で反応している可能性も高いということです。

この検査は、グレートプレーンズ研究所によって開発され、行われています。米国食品医薬品局 (FDA) の認可は得ていません。

FDAはそのような承諾や認可を必須としていません。グレートプレーンズ研究所は1998年度にClinical Laboratory Improvement Amendments (CLIA) から難度臨床検査の公認を受けています。